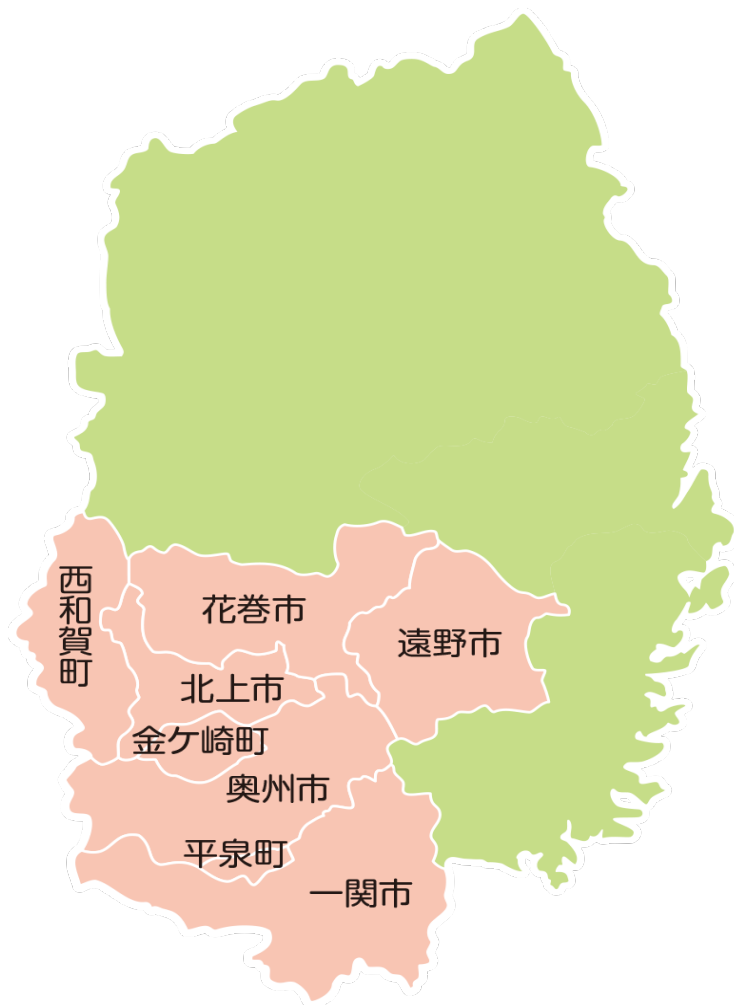


いわて県南圏域の 農業のすがた

【令和5年度版】



県南広域振興局農政部

【奥州地域】農政部/農村整備室/奥州農業改良普及センター

【花北地域】花巻農林振興センター/北上農村整備センター/中部農業改良普及センター

【遠野地域】遠野農林振興センター/中部農業改良普及センター

【一関地域】一関農林振興センター/一関農村整備センター/一関農業改良普及センター

地域農業の概況

花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ヶ崎町、平泉町の5市3町からなるいわて県南圏域は、岩手県の県央部から南西部に位置し、南は宮城県栗原市、登米市、気仙沼市に接する地域です。

東端は、東経141度32分、西端は、140度39分、南端は、北緯38度44分、北端は、北緯39度28分と、西に奥羽山脈、東に北上高地に挟まれた北上盆地をはじめとする平野部から、特別豪雪地帯に指定される中山間地域と、各地の特徴ある地形や気象条件に合わせた、農業や農村文化が営まれてきました。

作目では、北上川流域の水田農業を中心としながら、果菜類やりんご等の園芸や、黒毛和牛や乳用牛等の畜産が盛んであり、本県を代表する総合的な農業地域です。



〔生産基盤の状況〕

耕地面積は、78,020 ㌥で本県の52.5%を占め、水田整備面積は、14,369 ㌥と本県の89.2%を占めるほか、担い手への農地の集積率は、59.7%と県平均の54.9%を上回っています。

〔担い手の状況〕

基幹的農業従事者数は、23,917人と本県の53.8%、農業経営体数は、20,794経営体と本県の58.8%、集落営農組織数は、453組織と本県の74.3%、新規就農者数は、118人と本県の40.5%を占めています。

〔作物の生産状況〕

（土地利用型作物）

水稲の作付面積は、31,785 ㌥と県全体の68.9%を占めています。

小麦の作付面積は、2,075 ㌥と県全体の55.3%を占めています。

大豆の作付面積は、2,156 ㌥と県全体の44.5%を占めています。



水稲品種別作付面積・割合



(野菜)

きゅうりやトマト、ピーマンやなすといった果菜類を中心に、ねぎやアスパラガスの生産が盛んです。

きゅうりの栽培面積は、ハウス・露地併せて 88 ㍓ で、県全体の 46.6% を占めております。

トマトの栽培面積は、ハウス・簡易雨よけ併せて 77 ㍓ で、県下の 45.6% を占めております。

ピーマンの栽培面積は、ハウス・露地併せて 105 ㍓ で、県全体の 61.0% を占めております。

なすの栽培面積は、ハウス・露地併せて 38 ㍓ で、県産なすの全量が一関地域で生産されております。

ねぎの栽培面積は、91 ㍓ で、県全体の 36.7% を占めています。

アスパラガスの栽培面積は、促成・露地併せて 112.2 ㍓ で、県全体の 77.3% を占めています。



(果樹)

江刺りんごに代表されるりんごとぶどうの生産が盛んです。

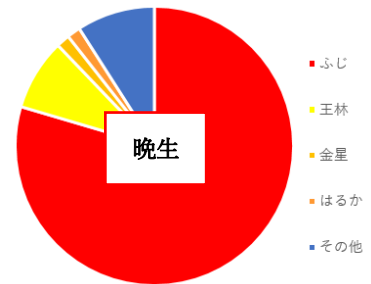
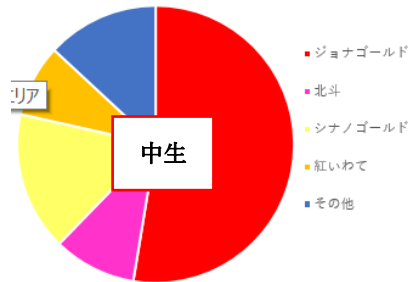
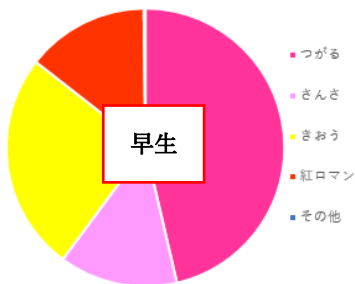
りんごの栽培面積は、917.6 ㍓ で、県全体の 49.8% を占めています。

ぶどうの栽培面積は、生食用が 81.2 ㍓ で、県全体の 42.8% を占めています。

また、醸造用ぶどうのほとんどが花巻市で生産され、面積は 121.0 ㍓、120.7 トンの生産量となっています。



りんご品種別作付面積割合

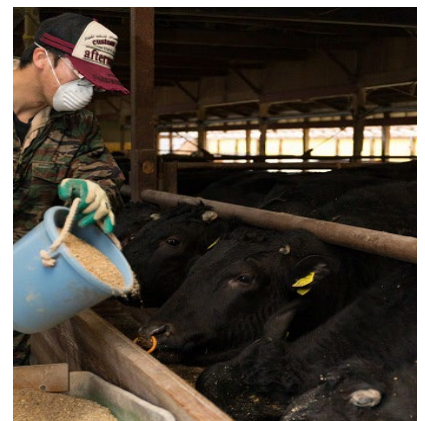


(畜産)

全国肉用牛枝肉共励会名誉賞（最高位）を 6 度受賞した「前沢牛」をはじめとする黒毛和牛や、管内に 3 社の乳業工場が操業しているなど乳用牛の飼育が盛んです。

肉用牛は、子牛を育成する繁殖農家が 1,873 戸と、県全体の 54.0% を占め、繁殖牛の飼養頭数は、20,932 頭と県全体の 48.3% を占めています。また、肥育農家は 204 戸と、県全体の 52.7% を占め、肥育牛の飼養頭数は、17,358 頭と、県全体の 50.8% を占めています。

酪農家は 197 戸と、県全体の 27.6% を占め、乳用牛（ホルスタイン種）の飼養頭数は 8,229 頭と、県全体の 23.2% を占めています。



花北地域の農業概要

地域農業の概要

花巻市、北上市、西和賀町からなる花北地域は、県の中西部、県南圏の北部に位置し、北上盆地の中央北部から真昼山地の中央部にかけての地域です。

花巻市の農業は、需要に応じた米づくりを基幹に麦・大豆や全国有数の雑穀、きゅうりやねぎなどの野菜、生産量県内トップクラスのりんごやぶどうなどの果樹、りんどうなどの花きと組み合わせた多様な農業生産を展開しています。

北上市の農業は、水稻を中心に養豚をはじめとする畜産、出荷量県内一のアスパラガスや在来系統の“二子さといも”を代表とする野菜や小菊といった花きなど、地域条件に合った効率性の高い農業に取り組んでいます。

西和賀町の農業は、水稻を中心にりんどうやゆりなどの花き生産や湯田牛乳公社がけん引する乳用牛が盛んなほか、地域特産品として「西わらび」の栽培・加工に取り組んでいます。

【県内トップクラスのぶどうの郷】

フランスのボルドーの気候に似ていることから、ぶどう栽培とワイン造りが始まった大迫地域を代表として、花巻市内では各地で、生食用・醸造用のぶどうが盛んに栽培されています。現在は、紅伊豆やシャインマスカットなどの高級生食ぶどうが各地で作られているほか、市内6か所の醸造所でワインを醸造。平成28年開催のG7伊勢志摩サミットで使用された高級生レーズンを製造する農園があるなど、生産から加工まで一貫した県内トップクラスのぶどうの産地となっています。



【地域の宝 二子さといも】

“二子さといも”は、北上市二子地域に古くから伝統的に栽培されてきた在来系統のさといもです。全国的にも珍しい「赤茎系」の品種で、味が濃く滑らかな食感と、独特の粘り気と煮崩れしない柔らかさが特徴です。2018年9月には、地理的表示法に基づきGI登録されました。また、二子さといもに、北上市産の黒毛和牛、白ゆりポーク、アスパラガスを加えて作った「北上コロッケ」は、北上市を代表するご当地グルメです。



【豪雪が育てた 西わらび】

奥羽山脈のほぼ中央に位置し、豪雪地帯として知られる西和賀町の肥沃な土壌は、春になると強い日差しを受けて雪解け水が染み込んでわらびの萌芽を促します。養分をたっぷりと吸収したわらびは、茎が太く、繊維が柔らかくてねばりが強く、色合いが鮮やかで、アクが少ないのが特徴で、「西わらび」と呼ばれ、古くから珍重されてきました。

国内で流通している本わらび粉の大半が外国産である中、西わらびの根からわらび粉を精製・加工した100%西わらび粉使用の特産品化にも取り組んでおります。

2024年1月に、地理的表示法に基づきGI登録されました。



遠野地域の農業概要

地域農業の概要

遠野市は、県南圏の北東部、北上高地に位置し、周囲が山々に囲まれた盆地で、その大部分は森林で占められており、農用地面積は10%以下となっています。

盆地特有の気温の日較差、夏と冬の寒暖の差が大きい気象条件の下、水稻のほか、肉用牛・乳用牛等の畜産や、たばこ・ホップ等の工芸作物、ピーマン・トルコギキョウ等の園芸作物など、多様な農業が行われています。

【トルコギキョウのブランド産地】

遠野市のトルコギキョウ栽培は昭和61年から始まり、現在は8~9月出荷の作型を中心に作付けされ、生産量は県内一です。

遠野産のトルコギキョウは、昼夜の気温差による鮮やかな花色と花持ちの抜群の良さが特長で、東京市場で高く評価され「品質日本一」を誇っています。



【ホップの里からビールの里へ】

遠野市では、1963年にホップ栽培が始まり、現在、栽培面積は日本一となっています。

市では、新規就農者の確保・育成や新品種の導入といった生産振興の取組に加え、ホップ収穫祭やビアツーリズムなどによる都市住民・消費者との交流等、ホップの魅力を活用しながら官民が一体となって地域活性化に取り組む「ビールの里構想」を推進しています。



【豊富な湧水や森林資源が育む遠野わさび】

遠野市宮守地区は、東北一の生産量を誇る根わさびの産地です。遠野市宮守地区における根わさび栽培の始まりは大正4年（1915年）頃からといわれ、100年以上の歴史があります。宮守地区では、年間を通じ一定の水温を保つ達曾部川の豊富な湧水により、ビニールハウスによる保温技術等も活用しながら、高品質な根わさびを生産しています。

また、近年では市の面積の8割を占める森林資源や、遊休農地を活用し、畑わさびの生産拡大にも取り組んでいます。



奥州・金ケ崎地域の農業概要

地域農業の概要

奥州市と金ケ崎町からなる奥州・金ケ崎地域は、県の中南部、県南圏の中央部に位置し、北上盆地の中南部に広がる地域です。

奥州市は、県南圏一の水稲作付面積を誇りながら、県内一の生産量を誇るピーマンをはじめとする野菜や、江刺りんごのブランドで知られる果樹、全国屈指の銘柄牛「前沢牛」に代表される畜産と、複合型農業による県内屈指の農業地帯です。

金ケ崎町は、総面積に占める農地割合が26.9%と県南地域でも最も高く、水田が7割を占めますが、総生産額では採卵鶏を中心とした養鶏や酪農など畜産が占める割合が高いほか、循環型農業による高品質で低コストな稲作やアスパラガス等の園芸振興が図られています。

【発展し続けるブランド 江刺りんご】

奥州市江刺のりんごの栽培は、昭和48年、全国に先駆け、「わい化栽培」を導入。品質とロット確保の観点から生産組合を次々と設立し、現在では、219畝の一大産地です。栽培品種は、サンふじ、ジョナゴールド、シナノゴールド、紅ロマン、奥州ロマン等15品種以上。各品種とも一流ブランドとして評価が高く、中でも主力品種の「サンふじ」は、令和5年の初競りで100万円/10キロの高値で取引されています。



【東北有数の夏秋ピーマン産地】

奥州・金ケ崎地域のピーマン栽培は、昭和50年代後半頃から、軽労的で収益が安定した園芸品目として、水田転作の拡大とともに産地化が図られ、令和5年の栽培面積は49haと東北有数の産地です。新規就農者や若手生産者が増えて産地が活性化し、スマート農業技術の導入も期待されています。



【アスパラガスの栽培振興】

金ケ崎町では、園芸振興の最重点作物にアスパラガスを掲げ、苗や栽培資材の助成、新規作型を取り入れるなどにより、栽培面積の拡大に取り組んでいます。

「アースくん、パーラちゃん、ガースくん」といったPRキャラクターを誕生させて応援ソングやダンスを通じ、アスパラガスをPRしています。



【岩手の至宝 前沢牛】

全国肉用牛枝肉共励会において「名誉賞」を6度も受賞する「前沢牛」は、生産者や関係者の努力と研鑽によりそのブランド牛としての地位を確立し、平成29年には地理的表示（GI）保護制度に岩手県で初めて登録されました。

1頭1頭愛情を込めて育てられた前沢牛は、上質できめ細やかな霜降りが特長で口の中に上質な香りが広がります。



一関地域の農業概要

地域農業の概要

一関市と平泉町からなる一関地域は、県南圏の南部に位置し、北上盆地の中南部に広がる地域です。

一関地域は、県内一の農業産出額を誇り、中でも肉養鶏を主体とした養鶏や養豚など畜産部門が、産出額の69.6%を占めます。加えて、果菜類や花きなど園芸の生産も盛んであり、作付面積は、主要果菜類（トマト、ピーマン、きゅうり、なす）が126ha、主要花き（りんどう、小ぎく）が41haで、それぞれ県南圏域の40.8%、34.2%を占めます。

また、当地域を流れる北上川は、一関市の狐禅寺地区から南が狭窄部となっていることから、度々洪水害に見舞われてきましたが、市街地の水害防止と洪水調節等のため、北上川遊水地事業（1,450畝）が実施され、これを契機に遊水地内で大区画のほ場が整備されました。

【若手が支える県内一のトマト産地】

JAいわて平泉では、市内の2カ所に共選場を整備し、選果、調製、箱詰めといった出荷作業を省力化することで、規模拡大しやすい生産環境を整えています。

同JAトマト部会の担い手グループ（担い手班）では規模拡大が進んでおり、担い手班は部会全体の約1/4の人数で、部会全体の販売額の半数を占めています。

また、産地の課題解決に向け、部会活動が展開されており、最近では、高温に適した品種選定や、単価向上のための秋どり作型の推進など、特色ある活動が行われています。

こうした活動により、単収が20tを超える生産者が増えるなど、技術力の高い産地となっています。

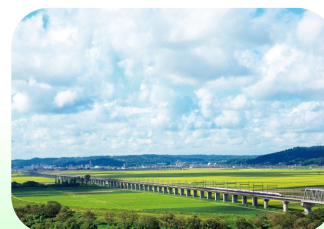
【地域ぐるみで鶏の食文化を発信】

一関市で養鶏業を営む(株)オヤマは、親鳥の飼育から始まり、鶏の処理、加工、販売までを一貫して行う6次産業化に取り組む企業です。健康な鶏を育てるため、飼料や水にもこだわりを持っています。植物性たん白を中心とした独自配合の飼料で腸内環境を整え、安全で安心な鶏肉の生産に取り組んでいます。また、直営店のからあげ家は、2018年「からあげフェスティバルNo.1決定戦」で優勝し、日本一に輝きました。

【いのちと暮らしを守り農業を支える一関遊水地】

昭和22年のカスリン台風、昭和23年のアイオン台風の大洪水を契機に、洪水調節、市街地等の水害防止や遊水地内の土地利用を目的に昭和47年に一関遊水地事業が着手され、遊水地内において大区画ほ場が整備されました。

1,450畝の遊水地は、国内3番目の面積となりますが、その殆どが農地利用されており、洪水害からいのちと暮らしを守りながら、地域農業を支える重要な生産基盤となっています。



いわて県南圏の農業データ

農業生産・販売概況

	単位	花北	遠野	奥州	一関	県南計	県割合
耕地面積	ha	26,940	7,010	24,640	19,430	78,020	52.5%
うち田面積	ha	23,640	3,910	20,450	13,350	61,350	65.6%
うち畑面積	ha	3,361	3,100	4,160	6,104	16,725	30.4%
農業経営体数	戸	5,953	1,513	7,044	6,284	20,794	58.8%
うち法人	法人	155	29	164	95	443	52.7%
基幹的農業従事者数	人	7,249	1,942	7,999	6,727	23,917	53.8%
集落営農組織数	組織	138	31	193	91	453	74.3%
うち法人	法人	62	3	92	21	178	79.1%
水田整備面積	ha	5,071	910	5,336	3,051	14,368	89.2%
水稲作付面積	ha	12,415	1,540	11,850	5,980	31,785	68.9%
主要園芸品目の作付面積							
トマト	ha	17		23	37	77	45.6%
きゅうり	ha	23	3	31	31	88	46.6%
ピーマン	ha	26	10	49	20	105	61.0%
なす	ha				38	38	100.0%
アスパラガス	ha	87	5	20	0	112	77.3%
ねぎ	ha	84	7			91	36.7%
りんどう	ha	32	0	28	11	71	33.6%
小ぎく	ha	13	1	5	30	49	75.8%
りんご	ha	291	19	351	256	917	49.8%
ぶどう(醸造用含む)	ha	202	-	8	9	219	59.3%
肉用牛(繁殖)飼養頭数	頭	3,036	3,527	5,405	8,964	20,932	48.3%
肉用牛(肥育)飼養頭数	頭	1,910	2,511	4,886	8,051	17,358	50.8%
乳用牛(ホルスタイン種)飼養頭数	頭	1,185	853	3,178	3,013	8,229	20.7%
農業産出額	千万円	2,512	695	2,909	3,513	9,629	36.7%
米	千万円	1,235	153	1,178	568	3,134	68.1%
野菜	千万円	341	62	204	249	856	35.0%
果樹	千万円	255	14	164	153	586	44.5%
畜産	千万円	501	427	1,202	2,445	4,575	27.4%
その他	千万円	180	39	161	98	478	83.9%

農林業センサス、農林水産省統計、県調べ等